

オーストラリアにおいて3大事業者がLTE サービスを開始へ ーモバイルブロードバンド市場の競争環境への影響ー

一般財団法人 マルチメディア振興センター 情報通信研究部 研究員

坂本 博史

1. 2013年には3大移動体通信事業者のLTE サービスがそろい踏み

オーストラリアではインカンパント事業者であるテルストラが競合事業者に先んじて、都市部でのLTE サービス提供を開始し、市場先行者となってきたが、2012年6月にオプタス及びボーダフォン・ハチソン・オーストラリア(VHA)が都市部を含む全国域でのLTE サービス提供計画を発表したことにより、2013年以降はLTE市場の競争が本格化する様相である。

テルストラは2011年9月、国内初のLTEサービスの提供を、キャンベラ周辺の首都特別地域、シドニー、メルボルン等の主要都市中心部及び約30の地方市区という大規模なカバレッジにおいて開始し、同年内に約50市区をこれに加える等、現在に至るまで着々とカバレッジを拡大してきている。

一方、最大の競争事業者であるオプタスは2012年4月よりニューキャッスル、ポート・スティーブンズ、ハンター溪谷等の郊外市区でLTEサービスの提供を開始したものの、シドニー、メルボルン等の主要都市では2012年中盤からサービス提供を開始すると表明するに留まっていた。しかし、2012年2月にオプタスは国内WiMAX事業者のVividwirelessを買収することを発表、同社が保有する2.3GHz帯を使用し、主要都市も含めて全国域でLTEサービスを提供する計画を明らかにした。Vividwirelessの買収手続きは2012年6月に完了し、オプタスは当初の予定通りに2012年中盤でのサービス提供を目指し、早急に準備を進めているところである。

加えて、もう一つの有力競争事業者であるVHAもまた、2012年6月に2013年内にLTEサービスの提供を開始する計画を発表、提供市区は今後決定されることとなるが、先行する上記2社に追随する姿勢を明らかにしている。

2. スマートフォンの普及により拡大するモバイルブロードバンド市場

オーストラリアにおける2010/11年度の移動体通信加入者は2,928万に及び、前年度比で約13%の増大となっている。ACMA(通信メディア庁)はこの市場拡大の要因として、HSPA等の3G規格によるモバイルブロードバンドのカバレッジが全国域に拡大していること、及び従来の接続端末であるUSBモデムやデータカードに加え、スマートフォンによるブロードバンド接続が可能になり、その利用者が急速に増加していることを挙げている。

同時点でインターネット接続が可能な移動体端末を利用する加入者は約1,447万で、移動体通信加入者全体の約49%を占めるが、その内、約968万、全体の約33%が携帯電話によりインターネットに接続している。また、その前年度比成長率は約42.8%と倍増に近い

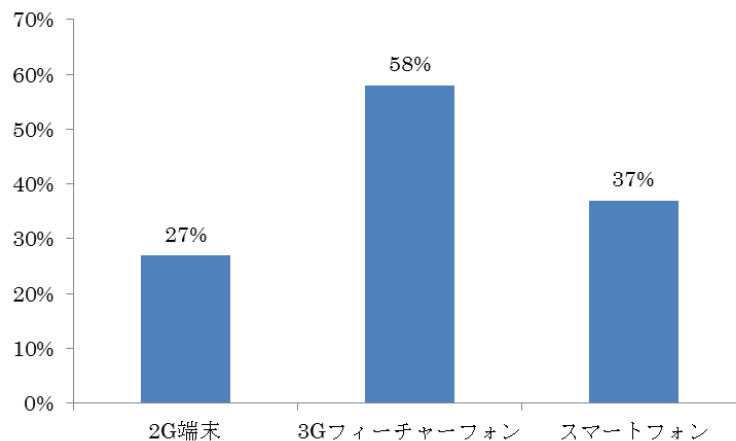
水準にある。

スマートフォンについては2011年4月時点で、成人の移動体加入者の約37%が既に利用を開始しており、その比率は3G加入者全体の約63.8%に及ぶ(図表1)。また、スマートフォン利用者はその他の3G移動電話(フィーチャーフォン)利用者に比べ、明らかにネット利用への選好が強い。18歳以上のネット接続可能な移動電話加入者においては、メール、SNS、アプリケーションのダウンロードといった主要なモバイルサービスの利用比率が、スマートフォン利用者では70%を超えているが、フィーチャーフォン利用者では40%台に留まっている(図表2)。

ACMAは移動電話でモバイルアプリケーションを利用する加入者が支払う月額料金水準を3段階に類型化しているが(図表3)、ここではGB単位のデータ量を許容する料金プランの加入者は「中間層(Medium)」あるいは「高位層(High end)」として位置づけられている。スマートフォン向け料金プランは、例えば、テルストラの「Every Day Connect Plans」のように概して1GB~3GBのデータ量制限による定額制で提供されており、スマートフォン利用者の大部分はARPU水準において高位層の加入者である。

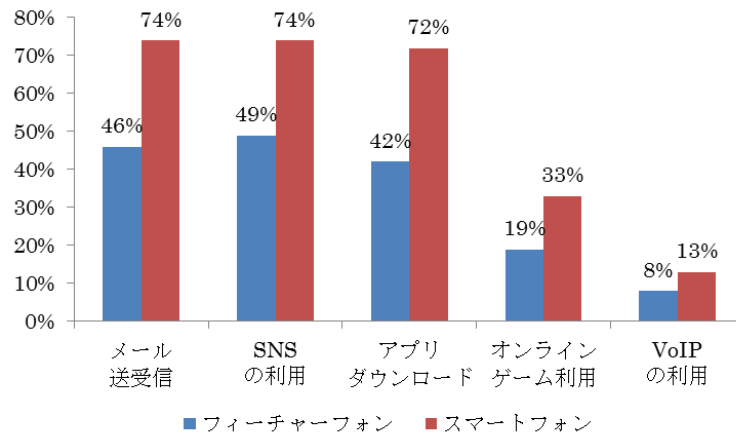
したがって、スマートフォン加入者は移動体事業者にとっては最重要の収入基盤であり、彼らの獲得を巡って今後のモバイルブロードバンド市場の競争が推移していくことは必然である。

図表1 移動電話加入者の使用端末比率(2011年4月時点)



出所: ACMA Telecommunications Report 2010-11

図表 2 携帯電話加入者の使用端末比率（2011年4月時点）



出所：ACMA Telecommunications Report 2010-11

図表 3 モバイルアプリケーションを利用する携帯電話加入者の料金水準

	加入料金水準	月次データ量制限	アプリ価格	アプリのデータサイズ
低位層	月額 49AUD 未満	100-200 MB	無料が多数派	数 kB から 1GB までの範囲
中間層	月額 49-98AUD	500MB-3GB		
高位層	月額 98AUD 以上	2-6GB		

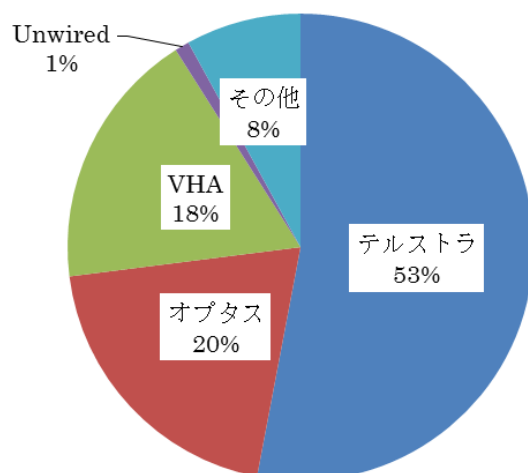
出所：ACMA “The emerging mobile telecommunications service market in Australia”, Report 3, 2010-11 Communications report series, November 2011.

3. モバイルブロードバンド市場ではテルストラの競争優位が顕著

オーストラリアの移動体通信市場は 2009 年 6 月の VHA 誕生により 3 大事業者体制が確立、2009/10 年度における市場全体の事業者シェアはテルストラが約 37%、オプタスが約 30%、VHA が約 27%と各事業者のシェア格差が約 10%の範囲に収まり、より競争的な市場環境に移行するかと思われた。しかし、2010/11 年度における同シェアはテルストラが約 41%、オプタスが約 30%、VHA が約 23%であり、僅かながら市場競争化への趨勢が反転する結果となっている。

その要因はモバイルブロードバンド部門におけるテルストラの競争優位が顕著なことにある。2010/11 年度の無線ブロードバンド市場全体の事業者シェアはテルストラが約 53%と市場の過半を占め、オプタスの約 20%、VHA の約 18%を大きく上回っており（図表 4）、その格差が拡大する傾向にある。

図表4 モバイルブロードバンド市場の事業者シェア（2010/11年度末）



出所：ACCC Telecommunications Report 2010-11 より作成。

テルストラは2006年10月より自社の3Gネットワーク「Next G」によるサービス提供を開始し、HSPA+へのアップグレードも含め、全国で約7,100のNext G基地局により積極的な事業展開を行なっている。また、上述のLTEサービスについても、Next Gのアップグレードにより提供されており、加入者に1.8GHz帯とHSPA+の850MHz帯に向けたデュアル端末を提供することで、LTE加入への呼び水としている。

一方、オプタス及びVHA（旧ボーダフォンAUS）は3Gについて周波数及び施設を共用して、サービスを提供してきたため、地方部でのカバレッジ拡大や新規の通信規格への更新投資が捗らず、結果、モバイルブロードバンド市場においてテルストラに対し、遅れを取っている状況にある。

上述した通り、移動体通信市場においてはモバイルブロードバンド部門の存在感が増しており、また、各端末メーカーが矢継ぎ早に市場投入するスマートフォンが更に状況を加速させることが予測される。したがって、モバイルブロードバンド市場における消費者の選択肢を、市場が拡大する過程においても確保し続けるためには、オプタス及びVHAの反攻が必要となってくる。

4. 周波数戦略がもたらす市場競争化

オプタス及びVHAが都市部を含む全国域でのLTEサービスの提供計画を発表したことは、モバイルブロードバンド市場でのテルストラへの挑戦の第一歩となる。オーストラリアではLTE用途の帯域として1.8GHz帯が配分されてきたが、オプタスは、上述した通り、WiMAX用途で利用されてきた2.3GHz帯を企業買収により取得、この帯域を自社のモバイルブロードバンド事業における経営資源とした。

加えて、オプタス及びVHAは従来からの周波数共用を強化する方針も明らかにしており、

2012年5月に全国で約500の基地局を新たに共同で建設する契約を締結し、更に、既存の基地局についてもモバイルブロードバンド用途での共用を推進する計画を発表している。そして、この両社の共有資源は今後、上述のLTEサービスのカバレッジを拡大していくためにも使用されることとなる。

他方、オーストラリアでは2013年12月に地上デジタル放送への完全移行が予定されており、そのアナログ跡地である700MHz及び2.5GHz帯の周波数オークションが2013年4月に実施される予定である。特に700MHz帯は地方部でのLTE用途の帯域として想定されており、オーストラリアの国土要件を考慮すれば、モバイルブロードバンド市場において競争力を得るための最重要の周波数帯ともいえる。オプタスは700MHz帯について試験用帯域として割り当てられ、2011年11月にLTEのデータ通信試験に成功、この帯域の取得に積極的な姿勢を示している。

このように、オーストラリアでも他の先進諸国と同様に、LTEあるいはそれ以降の次世代モバイルブロードバンドの市場競争では周波数の戦略的取得が最重要の課題となっている。一方、政府も上述の700MHz帯オークションに加え、2012年に入ってから、1.8GHz帯の技術要件変更や1.5GHz帯のモバイルブロードバンド用途への配分検討等、周波数の利用可能性を促進する姿勢を明確にしており、今後の官民双方におけるモバイルブロードバンドに関する周波数戦略が大いに注目されるところである。